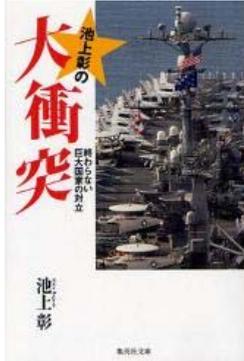
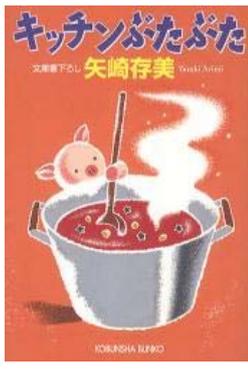
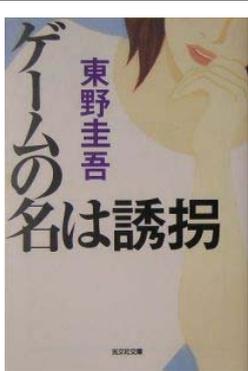


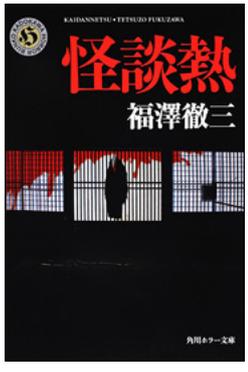
001 健

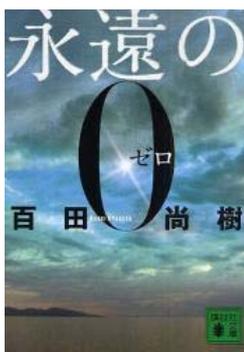
No.	読書日 2010年	タイトル	著者 出版	表紙	コメント	評価
1	1108- 1111	こんなに違うよ！日本人・韓国人・中国人	造事務所編 PHP文庫 550円		県民性、国民性を分析した本は思いの外出版されている。この本は一見見た目は変わらないが中身は全く違う日中韓の国民性を衣食住、最新のお国事情、人生観、金銭感覚、恋愛感、文化などを比較しながら多岐にわたるジャンルのデータを紹介していてなかなか面白く読める。	
2	1112- 1114	季節風 冬	重松清 文春文庫 540円		題名を見たときに四季のシリーズになるのだろうと予想。実際は春から始まって本書は最終巻。冬の季節に切なさや温もりを与えてくれる題材を見つける眼はちょっとした歳時記とも言える。12編の掌編で構成されていて一編25頁ぐらいとあって気楽に読めるが自分にはちょっと食い足りない。	
3	1115- 1116	俺は非情勤	東野圭吾 集英社文庫 500円		5年、6年の学習雑誌に掲載された短編シリーズなので文章は平明。「非常勤」が非情になっていることでわかるようにハードボイルドな非常勤教師が探偵役で普段は推理作家をめざし修行中。子供は嫌いと言いながら先々の学校で起きた事件を子供のことを思慮に入れて解決するあたり、只の子供向けでは無い。	
4	1118- 1121	利休にたずねよ	山本兼一 PHP 1,200円 (500円)		久々に面白い作品。冒頭は利休が切腹する様子から始まる。構成は回想方式で切腹の日から少しずつ過去にさかのぼる形式。切腹を命じた秀吉はもとより利休に関わった武将、弟子、妻、娘、利休本人などがある日の出来事を思い出しながらそれぞれのことの成り行き、人物描写をしていて面白く茶道や歴史上の人物の関わりも自然に身につく作品。	

5	1122-1124	ゴーストハント 旧校舎怪談	小野不由美 メディアファクトリー 1,260 円		小野不由美は中高生あたりからの支持が高い作家で本書は復刊が待望されていたシリーズものとあって期待感を持って読んだが…。取り壊すと事故が起こるといふ木造の旧校舎にサイキック研究者の主人公、悪魔祓い、霊能者、巫女、修験者などが学校から依頼されて集まってくるが出るぞ、出るぞでなかなか出ない昔のスリラー映画のようで少々飽きる。	
6	1125-	池上彰の 大衝突 終わらない巨大国家の対立	池上彰 集英社文庫・ 760 円		世界情勢をわかりやすく関心を持たせて解説するとなるとやっぱり池上彰だ。領土、資源、通過、環境、核問題をめぐり衝突するアメリカ、中国、ロシア、EU、サウジアラビアの対立の隠された構図と実際の国力を分析し最新データを加えて動向を展望しているあたりが興味を惹き、日本との関わりも見えてくる一冊。	
7	1125-1126	首ざぶとん	朱雀門出 角川文庫 620 円		怪奇小説家として今注目している作家。雨月物語や魍魎魍魎が跋扈していた時代を思わせる雰囲気を持った作品でいて現代感覚のあるところがいい。主役は怪談収集を趣味とする華道教室の先生と教室に通う女の子。京都・大阪の間あたりの市を舞台にした怪談連作で土地の伝承を組み入れじわりと恐い作品。	
8	1127-1129	犯人のいない 殺人の夜	東野圭吾 光文社文庫 580 円 (古 290 円)		東野圭吾らしい読者の想定するラストにひとひねりした結末が待っている7つの短編集。殺人の方法もよく考えられているが実は殺人の動機の方に重点が置かれていて考えさせられる。	
9	1201-1203	贗作「坊ちゃん」殺人事件	柳広治 角川文庫 540 円		柳広司得意の「坊ちゃん」を本歌取りした作品。東京に戻った三年後、山嵐から赤シャツの自殺を知らされ真相をさぐるべく再び松山へ。漱石の「坊ちゃん」での出来事がまったくちがうストーリーに解釈されて新たな殺人事件に展開されるあたりこの作家の真骨頂だがこの手の作品はいまいち評価が低いのが残念。	

10	1204-1206	ブルータスの心臓	東野圭吾 光文社文庫 600円 (古 280円)		人工知能ロボットの開発を手がける産業メーカーの開発者である主人公と同僚、社長の婿養子の三人は共通の女性関係のもつれから共同で女性の殺害を目論見、死体のリレーによるアリバイ・トリックを計画するが思いがけない事態に発展。それぞれの対応策や刑事の捜査方法に臨場感があって引き込まれる。最後はSF小説的なオチも。
11	1207-1208	眠りの森	東野圭吾 講談社文庫 580円 (古 280円)		加賀恭一郎シリーズの一作として読みたかった作品だがキムタク&中山美穂出演のTVドラマを見て期待薄だったが中身はまったくの別物。 バレエ団の事務所に押し入った男を殺害してしまった美貌のバレリーナ。正当防衛と思われたがバレエ団の中でさらに事件が起こる。加賀は関係者の女性に心を惹かれながら真相に迫るが切ない恋愛のラストに行き着く異色な作品。
12	1209-1211	嘘をもうひとつだけ	東野圭吾 講談社文庫 520円 (古 240円)		ガリレオシリーズのような科学的なトリックではないが普通の人間が自分を守るために作り上げた嘘とトリックの短編 5 作品。犯人の人間的弱さが浮き彫りにされていて加賀の追求は粘着質で動機など考えると読後感はいかぬ。「新参者」での変貌は正解だと思う。
13	1212-1213	11 文字の殺人	東野圭吾 集英社文庫 580円 (古 280円)		推理作家の恋人が殺され作家は担当の編集者と真相を追い始めるが接点となる人物が次々に殺されてゆく。ネタばれになるので書かないが殺人事件に発展する前に動機となる事故がありそれぞれ罪悪感を抱えていることが結末の後味の悪さにつながっている。
14	1214-1214	さっぽろ喫茶店グラフィティ	和田由美 亜璃西社 1,200円 (古 290円)		喫茶店にはことのほか思い入れが強かったが気に入っていた喫茶店は安価なチェーン店の台頭にすっかり姿を消してしまった。本書はよき時代の喫茶店の香りが残るさっぽろの喫茶店の今昔ものがたりと言った形で紹介しており中島みゆきゆかりの喫茶店なども掲載されている。

15	1214-1214	名古屋の喫茶店	大竹敏之 リベラル社 1,470 円 (古 500 円)		名古屋の食文化というのはかなり特異で普通の喫茶店では見られないメニュー、おまけ文化といったものが根付いている。本書では名古屋の大型喫茶チェーンのコメダ・支留比亜・コンパルからモーニング、鉄板スパ、小倉トースト、コーヒーぜんざいはもとよりナゴヤの喫茶店文化を紹介。ちなみに横浜駅付近でコメダ珈琲店があるのに最近気付きました。
16	1214-1215	天使の耳	東野圭吾 講談社文庫 560 円 (古 240 円)		表題作「天使の耳」は深夜起きた衝突事故の真相を死んだドライバーの妹である盲目の少女が兄の正当性を証明する話。日常起こりうる交通事故を題材に関係者のもたらした悲劇・運命を綴った連作ミステリー。身近に起き易いだけに事故関係の周辺事情が窺えてユニーク。
17	1219-1220	キッチンぶたぶた	やぎきありみ 矢崎存美 光文社文庫 540 円		主人公のぶたぶたは山崎さんという料理人でごく普通に作品の中に登場して普通に会話しているがカバーの通りのちいさなブタだ。文章中にバレーボールぐらいと書かれているのにありえない設定のため後半までブタの着ぐるみか、かぶりものを想像していた。ぶたぶたの作る料理は人をなごやかにするものであり作品自体も何かホットさせる雰囲気あり
18	1221-1223	ゲームの名は誘拐	東野圭吾 光文社文庫 620 円 (古 280 円)		タイトル通り誘拐という狂言誘拐を介して知恵比べを行う作品。主役となる犯人側からの視点で描かれ警察の動きを予測しつつプランを構築していく設定はピカレスクものとしても面白く読める。ラストには東野圭吾らしい意外な展開もある。
19	1224-1226	美しき凶器	東野圭吾 光文社文庫 600 円 (古 280 円)		東野圭吾の作品に多く見られるスポーツ・ジャンルのもの。ドーピング問題にからむ殺人事件が起き復讐の実行を決意するドーピングによって生まれた女性アスリート。「美しき凶器」とは言い得ているタイトル。強靱な身体能力に畏怖と憧れそして哀しみを感じてしまう。

20	1227-1228	相棒 10 周年メモリアル 「相棒」シリーズ・ガイド 杉下右京 10years	びあMOOK 1,200 円		相棒 10 周年を記念して杉下右京と演者である水谷豊のグラビア&インタビューを中心に構成。右京語録やプロデューサー・スタッフが語る相棒裏話も面白い。
21	1231-1231	ラーメンズ 微妙ハンター	ラーメンズ びあ(株) 1,300 円 (古 1,600 円)		DGでTIKAさんに頼まれて購入。渡す前に一読。定価の倍までの金額なら欲しいと言われたが絶版とはいえ古本を定価以上で買うのは自分のポリシーに反するのでそれこそ微妙な金額だった。何か余白が多いし言葉の遊びにはセンスを感じるけれどよほどのファンでもなければ買わん本。
22	0103-0107	怪談熱	福澤徹三 角川ホラー文庫 620 円		表題作の「怪談熱」はまあまあだったような気がするが何か全然覚えていない。マニアックで読みたくない作品もあったからかも知れない。実話怪談を収集する作家や怪奇色の強い気味の悪い作品の短編集。
23	0108-0111	北朝鮮と戦わば	井上和彦 双葉社 1,365 円		平和的解決も軍事的解決もままならぬ北朝鮮の横暴。軍事的なものに眼を背ける日本人にはショッキングなタイトル。主に自衛隊の戦力と北朝鮮の戦力分析をしているが韓国中国の軍事力の動向にも触れている。自衛隊の実力については過大評価に感じる部分もあるが安保を含め法的には有事の定義から何かあっても自衛隊は動けない矛盾を抱えている。
24	0108-0115	横道世之介	吉田修一 毎日新聞社 1,680 円		「好色一代男」の主人公と同じ名前を持つ主人公。長崎の港町から上京したお人好し。とりえもなく図々しいところもあるが憎めない性格。物語は上京したころの何でもない学生生活、青春の日々を描く。急転して世之介と関わった登場人物の回想が続く。何かを為したわけでもないのに懐かしい時間があったことに気付かされる作品ではあるが傑作というのはちよつと疑問。

25	0116-0120	あの頃の誰か	東野圭吾 光文社文庫 620 円		<p>いろいろな理由で短編集から漏れた短編を集めたもので本人が理由ありと書いているように統一感の無い作品が収録されているがバブル期の描写のある作品がいくつかあり改めてバブルが遠い昔だったんだなあと実感してしまった。</p>	
26	0121-0124	同級生	東野圭吾 講談社文庫 700 円 (古 225 円)		<p>主人公と関係を持った野球部のマネージャーが交通事故で死亡する。検死の結果彼女の妊娠が発覚。事故現場の目撃証言から生活指導の教師が妊娠の事実を確認しようと追いかけたのが原因とわかり抗議を受け、数日後その教師が殺される。犯人は誰か。事件の裏にある人間関係、諸処の事情が明かされてゆくが読後感は良くない。</p>	
27	0122-0122	神様は本を読まない	吉野朔実 本の雑誌社 1,365 円		<p>「本の雑誌」という月刊誌に 2~4頁掲載されたものを集めたもの。本来は本の紹介コーナーだが中身についてはあまり書かれていない。きっかけになった事情や著者を含む読書好きの知人たち多く登場。その言動がいかにもDG的で薄いわりに高いがつい買ってしまふ。興味のある人はまずは立ち読みでも充分。</p>	
28	0124-0128	永遠の ^{ゼロ} 0	百田尚樹 講談社文庫 920 円 (古 250 円)		<p>巻末の児玉清の感想が素晴らしい。自分の言いたいことが全部書いてあるのでまずはこちらをどうぞという感じだ。タイトルの0はゼロ戦のこと。戦時、無類の戦闘機乗りであったのに生きて家族に会うため死にたくないと公言し仲間から蔑まれていた男がいた。その男の生き様から愚かな戦争の全貌を明らかにしゼロ戦の物語としても読める作品となっている。ぐっとこみ上げてくるものがある。</p>	
29	0129-0131	歌麿殺贖事件	高橋克彦 講談社文庫 540 円 (古 150 円)		<p>これは何度も読み返しているが著者の浮世絵研究家としての真骨頂がよくわかる連作短編集となっていて好きな作品。</p>	

30	0202-0207	ダイイング・アイ	東野圭吾 光文社文庫 700 円		<p>東野作品の中では無駄にSEX描写の多い作品。バーテンダーの雨村はある交通事故で女性を死亡させてしまったが事故の記憶だけが無いことに気づき記憶を取り戻そうとする。死亡した女性の恨みを秘めた眼を持つ謎の美女も登場するオカルトめいた部分をうまくまとめたあたりと記憶を徐々に取り戻す過程の描写は気持ちが結構入り込む。唯一不可解なのが謎の美女の雨村に対する行動だ。</p>
----	-----------	----------	------------------------	---	--

